連合平和行動in沖縄

沖縄の地で平和への誓いを深く心に刻む

6月23日は、80年前の1945年、日本とアメリカが沖縄で戦った「沖縄戦」で、組織的な戦闘が終了した日とされている。

6月23日(月)、沖縄県那覇市において、「連合2025平和行動in沖縄」が開催され、JR連合の要請により中央本部から福本企画部長と田中政策・調査・福祉対策部長の2名が参加した。

「2025平和オキナワ集会」では、屋良衆議院議員より「新たな安全保障を目指して！」と題した基調講演を受けた。講演では、安全保障の手段は軍事力だけでなく、外交、人的交流、文化交流など多岐にわたることを学んだ。

また、平和式典では、参加者全員で黙祷を捧げた後、清水連合事務局長より、戦後・被爆から80年に触れ、沖縄の一人ひとりが平和運動の担い手となり、平和の尊さを広げていこうと挨拶をされた後、連合沖縄中宗根会長から沖縄の現状も踏まえた挨拶を受け、最後に集会アピールを参加者全員で確認した。

そして、戦争当時の状況や沖縄の現状を学ぶために、糸満市のひめゆりの塔や平和祈念公園を見学し、戦争の悲惨さや平和の大切さ身を持って体感した。

JR西労組は、引き続き、連合加盟単組やJR連合など、内外の機関と連携して、平和運動に取り組んでいく。

沖縄の地を実際に訪れることで平和の大切さを身をもって体感した

第3回拡大安全対策委員会

JR西日本連合の鉄道関係労組と「安全の確立について」議論を深める

中央本部は、6月13日(金)、西阪急ビル地下会議室において、第3回拡大安全対策委員会を開催した。委員会には、各地本・総支部、業職種別部会の担当役員の他、JR西日本連合の鉄道関係労組の担当者など約50名が出席し、安全の確立に向けて議論を深めた。

委員会座長に川端JR西労組安全対策委員長（中央副執行委員長）を選出し、JR西労組中央本部を代表し、羽野書記長が挨拶し、4月を安全月間とし、JR西日本連合と取り組んだ安全ディスカッションで出された意見を労使安全会議など、会社に伝えていることを報告したうえで、第3者評価の内容について述べた。

その後、中村業務部長より、この間の労使安全会議の議論内容や労働災害の発生状況など経過報告がなされた後、安全考動計画2027検証アンケートの結果や安全お守り手帳の活用方法などについて議論した。

最後に、出席者から、直近の事象や安全の課題に関する問題提起を受け、引き続き、出された課題についてJR西労組として対応していくほか、各単組で協力して課題解決に取り組むことを確認し、終了した。

出席者からは、直近の事象や安全の課題に関する問題提起があった

ロマンは実を結ぶ No.365

米子地方本部 石見支部

組合員との繋がりを大切に活動を行う

私たち石見支部は123名（内青女28名）の組織で、浜田列車分会（乗務員・検修）・浜田駅連区分会・浜田工務分会で構成しています。

コロナ禍では、組合活動が対面で会うことの制限などにより、支部・各分会は組合員とコミュニケーションがうまく取れず、苦労したこともありましたが、現在は各分会が中心となり職場集会や新入組合員や転入者の歓迎会等を開催し、組合員同士のコミュニケーションをとっています。

更に青年女性委員会は、『明るく・楽しく・元気よく』を合言葉に各種活動を行うことで、同世代の組合員同士の仲間づくりに取り組んでいます。

小さな支部ですが、その分、組合員同士の距離が近いため、普段かかわりのない職場の組合員と繋がりが持てるように活動をしています。

せっかくの機会ですので、島根県西部石見地方のご紹介をさせていただきます。石見地方は自然豊かな土地であり、海・山・川を望む景色を山陰線の車窓からご覧いただけます。四季折々に表情があり、朝・昼・夕に様々な姿を楽しむことができます。

その他、プロテニスプレーヤーの発言で有名になった「のどぐろ」をはじめ、「魚介類」や「石見ポーク」など美味しい食材がたくさんあります。周辺に温泉も多くあり、シロイルカのバブルリングで有名な島根海洋館アクアスがあります。また、自然を満喫してゆったりくつろぐには最適の場所です。ぜひ石見地方に旅行に来て、日頃の疲れを癒してみてください。

〈米子地本発〉

職場の垣根を越えて、組合員との繋がりとそのご家族とも親交が深まるよう活動しています

それいけ！はりまくん　おぼたみゆき

JR西労組議員団会議所属議員が続々と質疑

JR西労組議員団会議に所属する議員が、6月に開催されている定例会において登壇し、地域公共交通や教育について、質疑を行った。

■近藤宏和向日市議が第2回定例会で一般質問

JR西労組議員団会議に所属する**近藤宏和議員**（向日市議会）は、6月5日(木)に向日市議会令和7年第2回定例会の一般質問に登壇し、京都地方本部と京都支部の仲間が激励の傍聴行動を行った。

近藤議員は、教育と環境問題について発言した。教育関係では、障害がある子どもや不登校対策として「誰もが学べる環境づくり」について発言し、環境問題に関しては、「持続可能な社会の実現」とすべく、不法投棄の問題やリサイクルの促進について、地域の身近な課題や、弱い立場になる方に寄り添った視点で、当局に対して、課題提起をした。

近藤議員（左から二人目）を囲んで

■大伴るい長岡京市議が地域公共交通について発言する

JR西労組議員団会議に所属する**大伴るい議員**（長岡京市議）は、6月12日(木)に、長岡京市議会令和7年第2回議会定例会において一般質問に登壇し、京都地方本部の仲間とJR西労組議員団会議に所属する近藤向日市議が激励の傍聴行動を行った。

大伴議員は、地域公共交通の課題に触れ、児童に対する電車やバスの乗り方教室の実施、通学定期券や、シニア世代への補助制度を提案し、全ての世代の人が利用できる公共交通について、当局の見解を問い質した。また、女性の生理への理解増進について、更なる取り組みの必要性を訴えた。

JR西労組は、引き続き関係議員と連携を深め、政治への理解を深める運動を展開し、政治への参画を広げる運動を着実に進めていく。

大伴議員（中央）を激励。近藤議員（右隣）も駆けつけ

JR西日本野球部

4年連続8回目の本大会へ

第96回都市対抗野球大会 中国第1代表決定

6月30日(月)に、第96回都市対抗野球大会の中国2次予選が岡山県倉敷マスカットスタジアムにおいて開催され、全員がJR西労組組合員であるJR西日本野球部が、JFE西日本を相手に第1代表決定戦に挑んだ。

先発の花村投手は伸びのある直球と、変化球を織り交ぜながら相手打者に的を絞らせない投球で、4安打完封した。また、打線は2回に内野ゴロの間に1点先取し、4回には、戸田選手のスクイズなどで2点を加え、3対0で勝利し、中国第1代表を決め、4年連続8回目の出場を決めた。

本大会は、全32チームが出場し、8月28日に東京ドームで開幕する。

JR西労組は、JR西日本野球部の組合員の活躍を応援する。